

一般社団法人日本遺伝性腫瘍学会 2024 年度 第 2 回理事会議事録

日 時：2024 年 10 月 18 日（金） 15:00~17:40

場 所：東京都中野区中野二丁目 2 番 3 号 web を活用し開催（zoom）

出席者： 理事長 石田 秀行（現地参加）
副理事長 石川 秀樹（web 参加）
理 事 有賀 智之 井本 逸勢 大住 省三 川崎 優子 隈元 謙介 下平 秀樹
西垣 昌和 平沢 晃 平田 敬治 門馬 智之 山口 達郎 吉田 輝彦
監 事 鈴木 眞一 武田 祐子 田村 和朗（全員 web 参加）
司法書士 寺本 俊孝
事務局：石坂 和子 内山 覚巳 皆川 裕美
編集事務局：中田 るり子

理事 14 名、監事 3 名が出席し、web（zoom）による出席者の音声即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明が互いにできる状態にあり、本会が成立することが確認された。以下、石田理事長が議長となり議事を進行した。

議 事：

【報告・審議事項】

1. 理事長報告

石田理事長より、資料にもとづき、MGPT の指針作成進捗状況、日本医学会加盟申請、Pubmed(MEDLINE) への「遺伝性腫瘍」のアブストラクト掲載に向けた取り組み、地方会規程作成および四国地方会立ち上げ状況、LFS ガイドライン作成への支援状況、市民公開講座（長崎、10 月 19 日）の予定、がん治療認定機構への対応、遺伝性腫瘍セミナーの準備状況、30 周年記念誌作成の進捗状況、家族性腫瘍カウンセラーの今後の取り扱いに関する他学会への報告状況について報告があった。

編集事務局の中田より、30 周年記念誌については、1 月発行予定との報告があった。

2. 庶務報告

資料にもとづき、会員数・新規入会者（2024 年 9 月 30 日現在）、会費納入状況（2024 年 9 月 30 日現在）、2024 年度の年会費請求予定（10 月中）について報告があった。また「遺伝性腫瘍専門医テキストブック」1052 部、「遺伝性腫瘍ケーススタディー100」971 部の売り上げ実績について報告があった。

3. 第 30 回学術集会報告

下平会長より、資料にもとづき第 30 回学術集会収支について報告があった。また、参加登録は 1309 名、現地参加者は 600 名（on line 約 1300 名）、市民公開講座参加者は 70 名であった。

4. 第 31 回学術集会（2025 年）準備状況報告

平田会長より、資料にもとづき第 31 回学術集会の準備状況について報告があった。学術集会前日の 6 月 19 日（木）は定例理事会（15 時もしくは 16 時開始予定）のみとし、社員総会については 20 日の学術集会 1 日目終了後に開催予定（社員総会終了後に新理事会開催予定）との報告があった。

5. 各種委員会報告・審議

- ① 総務委員会・評議員選出委員会：平田理事

評議員選出委員会より資料にもとづき、次期評議員候補者一斉選出のタイムスケジュールについて報告があった（12月15日に学会事務局にて申請書類の確認を行う予定）。

会員数の約10%を大幅に超える申請があった場合には、本学会での業績（本学会誌への投稿、学術集会での発表など）を提出したもの、本学会の専門医、HTC・FTCなどの資格者を優先し、また本学会の会員歴を考慮し、評議員選出委員会で審議する方針であることを申し合わせ事項として承認された。また、評議員数の会員属性による按分については、その原資となる会員属性が十分把握されていないことについて報告があった。

なお、理事選挙を3月に実施するために、12月15日の評議員選出委員会後、次期評議員候補者について通信理事会で承認後、選挙管理委員会の立ち上げ（年内予定）、その後の役員選挙スケジュールについても確認があった。

総務委員会より、第32回学術集会（井本逸勢会長）の開催予定（2026年6月12～13日、ウインク愛知）について報告があった。

② 財務委員会：大住委員長

資料にもとづき、今年度の収支予算案が報告された。12月末までに各委員会で来年度必要となる予算について事務局へ提出の依頼があった。

③ 会則委員会：門馬理事

資料にもとづき、新規作成された地方会規程（案）について審議の上、承認された。四国地方会立ち上げの進捗について、隈元理事より説明があり、3月理事会に申請して頂き、理事会で承認後、来年度の評議員会で承認されてから活動を開始することとなった。地方会の会計報告については、年に1回理事会で報告すること、新たに地方会を立ち上げる場合は総務委員会に対応すること、定款に記載されている地方会に関する文言については、今後修正も含め検討していくこととなった。

④ 編集委員会：下平理事

資料にもとづき、「遺伝性腫瘍」の発刊状況、投稿論文審査状況、投稿勧誘予定について報告があった。Pubmed 掲載申請については、和文誌の場合はMEDLINEに限られるが非常に難関であり、英文誌を立ち上げてPMCで採用される方がPubmedに掲載される可能性が高いとの報告があった。英文誌の立ち上げについて再度委員会で検討し、次回理事会にて報告予定となった。

委員会構成として、副委員長に北川大先生が承認された。編集幹事の追加については委員会で検討することとなった。

また、Editorial Boardを立ち上げたいとの要望があり、査読フローや編集委員会規約についても修正案を次回理事会で審議することとなった。

⑤ 遺伝性腫瘍セミナー委員会：吉田理事

資料にもとづき、第27回遺伝性腫瘍セミナーの開催について、台風10号の影響を大きく受けたが現地開催は無事終了したとの報告があった。また、第3回アドバンストセミナー、第28回遺伝性腫瘍セミナーの開催予定の報告があった。

⑥ 専門医・HTC/FTC 制度委員会

● 専門医制度小委員会：隈元理事

資料にもとづき、第 8 回遺伝性腫瘍専門医試験（申請状況・日程）、専門医更新業務、指導医申請業務、新規研修施設認定について報告があった。

● HTC/FTC 小委員会：川崎理事

資料にもとづき、遺伝性腫瘍コーディネーターの認定試験（日程）、移行措置・経過措置（審査中）、広報委員会との連携について報告があった。

審議事項として新規委員追加について、遺伝性腫瘍コーディネーター規則の申請資格部分の変更について承認された。

⑦ 学術教育委員会：平沢理事

資料にもとづき、「遺伝性腫瘍に関する多遺伝子パネル検査の手引き」の作成状況、今後の市民公開講座、第 31 回学術集会での教育セッションの開催予定について報告があった。

審議事項として、新規委員追加が承認された。

⑧ 保険診療委員会：平沢理事

資料にもとづき、委員会の活動内容、ならびに令和 8 年度診療報酬改定について遺伝関連学会と協力して申請を行う予定であるとの報告があった。

⑨ 将来検討委員会：石田理事長

これまでのアンケートに加えて、次世代に何を期待するかなどのアンケート調査を行う予定であるとの報告があった。

⑩ ガイドライン委員会：大住理事

資料にもとづき、LFS のガイドライン改訂について報告があった。ガイドライン委員会として予算を組むのか、ガイドライン作成として別予算にするのか検討し、3 月の理事会で概要について報告することとなった。

⑪ COI 委員会：大住理事

2024 年度の COI 開示について近々役員への連絡予定であることが報告された。

⑫ 倫理審査委員会：井本理事

報告事項なし

⑬ 広報委員会：有賀理事

資料にもとづき、委員会活動内容、前期ニュースレター作成（配信済み）、英文 HP 作成状況について報告があった。

⑭ 国際委員会・がんゲノム・データベース（GDB）委員会：山口理事

委員会活動として、トラベルグラントについて募集開始予定であるとの報告があった。PLSD との多機関共同研究については、倫理的な課題もあり、倫理審査委員会とも相談をし、研究計画書の作成を進めていくこととなった。

日本消化器病学会附置研究会の「がんゲノム医療時代における Lynch 症候群研究会」の代表が山口達郎理事になったことを受け、当研究会ならびに「Lynch 症候群研究会」との連携ならびに Lynch 症候群のガイドライン作成などの方向性について今後協議することとなった。

⑮ 遺伝カウンセリング委員会：西垣理事

委員会活動として、遺伝性腫瘍を専門としないがん診療従事者（非会員を含む）への啓発動画について年度内の作成、遺伝カウンセリングネットワークについて、年明けをめどに検討しているとの報告があった。

⑯ 作業部会委員会：石川理事

4 部会の活動内容（LFS 部会での絵本・HP 作成、PJS/Cowden/SPS 部会でのレジストリ開始）について報告があった。

6. その他

・石田理事長より、学術集会への準備金として 40 万円支出しているが、準備資金の高騰や学会の基盤が整ってきたことも踏まえ、増額について提案され、第 31 回学術集会から 80 万円に増額することが承認された。

次回の理事会日程調整について、提案があり理事会終了後にアンケート調査を行うこととなった（候補日：2026 年 3 月 1, 7, 8 日）。

以上をもって議事の全部を終了し、議長は 17 時 40 分閉会を宣した。

以上議事経過ならびに結果を明確にするため本議事録を作成し、理事長および出席監事は次に記名押印する。

以上